

スコットランド・ダンディーでの1年

商学部教授 池田 健一

平成26年9月より一年間、長期在外研究員としてスコットランドのダンディー大学で研究を行う機会をいただきました。まずはじめに商学部の先生方、事務職員の皆様方、福岡大学の関係者の皆様方にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

ダンディー市は、イギリスの北部のスコットランド東部の町で北海に面するテイ湾の北岸に位置します。

主要な産業は、製造業、ソフトウェア開発、バイオテクノロジー、小売業などです。マーマレードの発祥地とされており、この町から船（Discovery号）で南極探検に出かけたことから発見の町ともいわれております。

ダンディー大学は、セントアンドリュース大学から枝分かれしてできたといわれます。私はダンディー大学の Accounting & Finance 学部にて在外研究員として所属させていただき家族とともに現地で生活する機会をあたえられました。受け入れていただいたのは、同学部のデビット・コリソン教授でした。教授は翌年に定年を迎える予定となっており、とてもお忙しい中、わが一家を快くお引き受けいただきました。

現地に到着したのは現地時間で9月1日の深夜でしたが、ちょうどスコットランドの独立に関する住民投票が行われようとしている18日ほど前のことでした。当初から賛成派と反対派が拮抗していましたが、到着直後は反対派が60%程度とやや上回っていました。しかし投票日に近づくにつれて賛成派が増え、予断を許さない状況になってきていました。

当時は、ホテルに仮住まいをしながらアパート探しを続けていましたが、投票日の直前に市内の広場で、違う日に賛成派と反対派が、賛成派はスコットランドの国旗を掲げ、反対派は連合王国の国旗を掲げてそれぞれ集会を行っていたのが強く印象に残っ

ています。

投票結果は、55対45で反対派が上回りましたが私が滞在したダンディーとスコットランド第2の町のグラスゴーでは賛成派が多数を占めていたとされます。

直前の様子を現地で見聞きし、もしかするとスコットランドの独立という歴史的な瞬間に立ち会うことになる可能性も十分にありうると感じられる非常に緊迫した状況でした。

スコットランドの独立に関する住民投票の後日談ですが、大学関係者はほとんどが反対に回っていたようでした。その理由の1つとして、独立が決まっていたらスコットランドの大学への補助金が打ち切りになる恐れがあったことがあげられます。ダンディー大学も理系の学部を中心に多額の補助金を受給しており、これが打ち切られると研究資金など大学にとって深刻な影響が出る恐れがかなり高かったようでした。

また、ある大学関係者から、スコットランドの独立が決まっていたら、少なくとも短期的には経済的に非常に困難な状況に陥る恐れが高かったのではないかという話を伺いました。これに関連して、投票直前にスコットランドのいくつかの銀行が独立が決まった場合に本店をロンドンに移転する計画を発表していたことがあげられます。

9月初旬のダンディーの町は、残暑が厳しい日本と比べて、気温が10度台と非常に涼しく、全く汗をかきませんでした。というよりも夜間などは9月下旬から家族の要望でほぼ毎晩、セントラルヒーティングを使わないといけなような肌寒い日々が続いていました。

私たち一家は、これまで短期の海外旅行の経験はありましたが海外での生活は初めてのことでした。コリソン教授の心遣いで、我が一家は、ダンディー

大学のヒューマニティ学部の先生をご紹介いただき、日本語で現地での生活の留意点について、いろいろとアドバイスをいただきました。また、現地にはマーマレード会という日本人の会があり、メンバーは20名程度でしたが、私たち家族はずいぶんとお世話になりました。

招待状をいただいた時点では、大学院生と同じ研究室を使ってもらうという条件でしたが、大学に行ってみるとコリソン教授から、たまたま空いていた研究室をしばらく使って良いという好条件を提示していただきました。

また、コリソン教授のおかげで MBA コースの国際会計の講義とドクターコースのゼミにも何度か参加して聴講させていただくことができました。

MBA のクラスやドクターのクラスには、それぞれ10数名の学生が在籍していましたが、スコットランド人やイギリス人の学生はほとんどいなくて、中国、アフリカ、中東などからの留学生がほとんどでした。

その理由の1つとして、ある教員から聞いた話ですが、スコットランドで生まれ育った人がスコットランドの大学に進学すると授業料がほとんどかからない。一方、イングランドで生まれ育った人がスコットランドの大学に進学すると授業料が年間£9,000(約170万円)もかかる(ただし EU から進学した人はイングランドで生まれ育った人と比べて授業料が非常に優遇されているそうです)。さらに EU 域外の海外から留学した学生は授業料が年間£18,000(約340万円)以上かかるそうです。このためダンディー大学は、数年前から EU 域外の海外からの留学生獲

得に力を入れているようで、大学職員を派遣して現地説明会を行ったり、優秀な学生をスカウトして入学させるケースもあるということでした。このため、大学のキャンパス内に寮が設けられており、留学生が希望すれば全員入寮できるように施設が整備されていました。

なお、ある中国人留学生によると、ダンディー大学のキャンパスには日本人学生は4~5名しかいないということでした。このため、滞在中にキャンパス内で日本人の学生に会うことは1度もありませんでした。

研究のかたわら、時折、図書館の中のカフェなどで中国人留学生や香港からの留学生と雑談をする機会があり、ダンディーの人々の生活について教えてもらうことがありました。それによると月曜日から金曜日まで朝9:00~夕方5:00の勤務スタイルを取っている人が多いということでした。そして一部の業種を除いて、土曜日と日曜日は休みだそうです。これはお客様への利便性を非常に重視している現在の日本と比べて、かなりスタンスが違っているように感じました。ある意味で私がまだ幼かった頃のような一昔前の日本に近い状況ではないかとも感じられました。留学生らによると、この働きぶりで、比較的豊かに暮らせているのは北海油田の恩恵を受けているおかげもあるのではないかということでした。

その後、12月下旬にダンディー大学の先生方7~8名と飲み会をさせていただいたり、12月末に大学のクリスマスのイベントにコリソン教授夫妻とともに参加させていただいたりと年内は比較的恵まれた生活を送ることができました。

しかし、1月末に父が病気で急死するという事態に直面して状況は一変しました。一時帰国も真剣に



ダンディー大学の校舎



ヨーロッパ会計学会の様子

検討しましたが最終的に見送らざるを得ませんでした。その後、1～2か月はスコットランドの冬の厳しい寒さもあってか体調を崩してしまい回復にすっかり時間がかかってしまいました。

その後、4月下旬に家族でコリソン教授夫妻の自宅にご招待を受けて訪問させていただきました。教授は自宅で猫を2匹飼っておられました。教授が共同で所有されているヨットを見るため車で近くのヨットハーバーまで移動し、さらに近所の緑地を教授夫妻とともに散策させていただきました。

その翌日から3日間、グラスゴーで開催されたヨーロッパ会計学会にはじめて参加しました。4月下旬という日本では新学期開講直後の多忙な期間であるにもかかわらず日本から報告しに来られている先生が何人かおられました。

今回の在外研究は、初めて見聞きすることが多く、自分にとって良い経験となりました。しかし、日本と気候、風土、生活習慣などが多少違っていたので慣れるのに時間がかかってしまった点が反省材料としてあげられると思います。



カリフォルニア大学サンディエゴ校での在外研究を終えて

理学部化学科助教 濱口 智彦

1. はじめに

平成26年9月より、長期在外研究員として一年間を米国カリフォルニア大学サンディエゴ校（以下UCSD）で過ごしました。

UCSDは、米国カリフォルニア州南部に位置するサンディエゴ市にある、公立大学です。カリフォルニア大学の中では七番目、1960年に設立された比較的新しい大学です。歴史は幾分浅いですが、2015年度世界大学ランキングでは14位に位置しており^[1]、全米のみならず世界的にもトップレベルの研究大学と評価されています。

2. 研究について

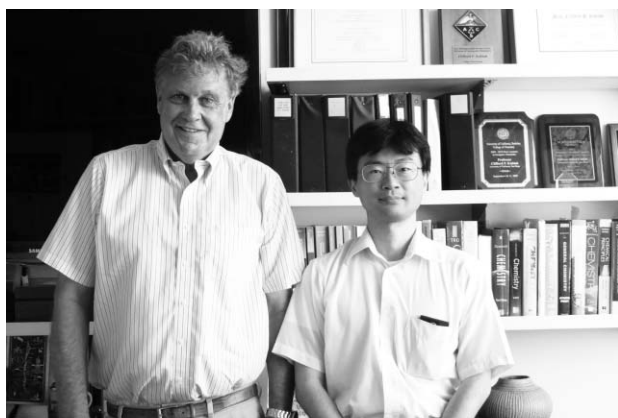
今回、小分子の活性化という研究テーマのもと、Clifford P. Kubiak先生の研究室にお世話になりました。Kubiak先生は、私の恩師である伊藤翼先生の共同研究者で、当時大学院生だった私も研究に加わりました。そのご縁もあり、快く、受け入れの承認をいただくことができました。先生の研究テーマは多岐に渡ります。近年は、金属錯体を触媒とした反応を用いて環境問題やエネルギー問題を解決するため、精力的に研究をなさっています。UCSDという恵ま

れた研究環境で、ラボメンバーとともに一年間、研究を行いました。

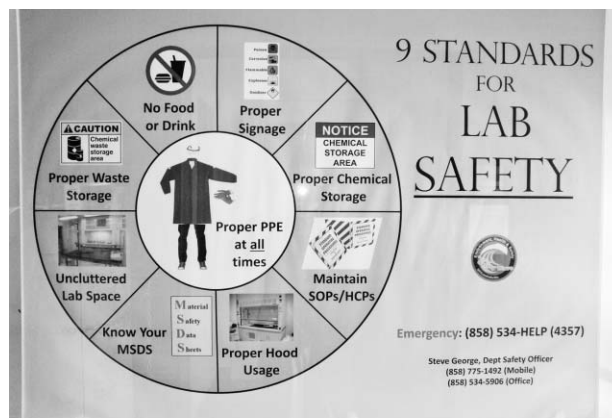
研究生活において、一番驚いたのが安全に対する意識の高さでした。2008年に、カリフォルニア大学ロサンゼルス校において、研究員が実験中の事故により焼死するという痛ましい事故が起きたそうです。その責任の一端を巡り、今なお州当局と大学の間で裁判が行われていました。このためなのかどうかはわかりませんが、実験を安全に行うための管理体制は非常に（時には面倒に思う位に）、徹底していました。以下はその決まりごとの一部です。

- 新任者は安全講習を受講するまで、実験業務ができません。また二年に一度再講習が義務付けられています。
- 白衣、保護メガネなどの保護具は、実験中必ず着用が求められます。
- 緊急シャワーやドラフトなどの安全施設が充分設置されており、また定期的に動作チェックとメンテナンスが行われます。
- 安全管理専門部署による立入検査も頻繁に行われます。

このように列举してしまうと、一見当たり前なこ



Kubiak先生とともに



安全を喚起するポスター

とばかりです。しかし、その当たり前のことが肅々と行われている光景には、一流大学としての凄みを感じました。翻って、福岡大学においては彼我の間に非常に大きな隔たりがあると言わざるを得ません。もちろんスペースや金銭的な面での問題はなかなか解決が困難です。しかし、少なくとも安全に気を配るという意識面を、見習って行きたいと思いました。

なお、研究を行うにあたり、UCSD において様々な測定機器を使用しました。翻ってみて、機材の量と質に関していうと、福岡大学理学部化学科は引けを取らないと感じます。これは諸先生方の努力の賜物であることは言うまでもありませんが、一地方私立大学の有する測定装置が米国有数の大学と同等であるという事実には、胸を張って良いのではないかと思います。

3. 生活について

前もって日本国内で準備しておいてよかったと思うのは、米国内における銀行口座の開設、ドル建てクレジットカードの作製、および、携帯電話の契約です。これらはそれぞれ Union Bank (三菱東京 UFJ 銀行を經由)、PREMIO 社、H₂O by KDDI mobile を用いました。特に携帯電話は思いのほか重要で、何をするにも最終的には電話が必要になりました。電話は通常、自動音声をたどっていくシステムなのですが、そのため、担当者と話し始めるまでに10分以上かかります。つながったと思ったら、電話口で1時間以上待たされたり、電話のかけ直しを求められたりと、いろいろなことを経験しました。SMS サービスはラボメンバーとのやりとりに非常に重宝しま

した。月30ドルで、米国内の通話および SMS サービスが無制限に使用可能という定額制のありがたみを、ひと月もしない間に、しみじみと感じるようになりました。

住居を決めるにあたり、Redac 社のサービスを利用しました。家賃1月分の手数料で、家探しとその契約、ガス・水道などの契約代行、さらに生活立ち上げのサポートをしていただきました。人によっては一週間以上ホテル暮らしをして家探しをする人もいますが、入国後は様々な雑用があるので、事前に住居面での不安が解消されたことは、私にとって、とても大きかったです。入国後の雑用の中でも重要なものとしては、ソーシャルセキュリティーナンバーとドライバーライセンスの取得があります。これらは web を活用し^[2]、渡米前に情報収集をしておいた方が賢明です。UCSD に研究者として滞在する場合は、International Center に登録してオリエンテーションを受けるのですが、そこでも詳しい説明がありました。

また、米国では毎年4月15日までに連邦税と州税を収める必要があります。この際に必要な書類や手続きは非常に難解です。注意が必要なのは UCSD から1ドルももらっていない人でさえ、大抵の場合納税義務があることです。しかし直接給与をもらっている人にしか説明会の連絡や必要書類が届きません。納税の義務を怠った場合はそれなりの罰則があるようなので、帰国後も米国にまた行きたい人は、年明けあたりから、自分で勉強を始めた方が良いでしょう。

買い物に関しては、日本の製品が、日系スーパー



UCSD のシンボル Geisel Library



ラボのある Pacific Hall

の Mitsuwa、Marukai、Nijiya でほとんど手に入りました。食材だけでなく雑貨なども非常に充実しています。また、これら日系スーパーで無料で配布されているミニコミ誌は、現地の最新情報を日本語で入手出来る媒体として重宝しました。特に羅府テレフォンガイドは電話帳としてだけでなく米国での生活に必要な情報がきれいにまとまっていた。

4. おわりに

様々な体験を通じて、非常に有意義な研究生生活を送らせていただきました。改めて、福岡大学に、特に理学部化学科の諸先生方に感謝申し上げます。

なかなか学内での仕事が多く、一年間研究室を留守にするのは難しいと思います。しかし一年間をひたすら研究に没頭できる機会というのは、非常に得難いものであり、実際のところ新鮮な体験ができました。できれば、若手の助教/准教授の先生に早めにこの体験をしていただければと思います。

参考文献

- [1] <http://www.shanghairanking.com/ARWU2015.html>
- [2] 例えば <http://www.sandiegotown.com/>



International Center



滞在していたアパート



Rock Bear



羅府テレフォンガイド